

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名		ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
マニュアルセラピー			選択	2	3	後期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
関口 賢人		D306	y-sekiguchi		月曜日 16:00~17:00	
授業の目的・概要		徒手療法 (Manual Therapy) とは、各系(感覚器系、結合組織、筋系、神経系、関節系、循環系、内臓系など)を評価した上で、対象者に最も適する治療手技を選択する方法である。マニュアルセラピーでは、歴史、治療技術についての基礎的事項を学習し、臨床現場における適切な実施方法を実践できることを目的とする。				
学習上の助言		この授業では、解剖学、生理学、運動学で学んだ基礎医学分野の知識が必要となるので、復習しておくことが望ましい。				
教科書		運動機能障害症候群のマネジメント/ 著: Shirley A.Sahrmann / 出版社: 医歯薬出版株式会社 (必要に応じてプリントを配布する)				
参考書		PNF マニュアル 改訂第3版 編: 柳澤 健、乾 公美 出版社: 南江堂				
学生が達成すべき行動目標					関連卒業認定・学位授与方針	
①	各系(感覚器系、結合組織、筋系、神経系、関節系、循環系、内臓系など)を評価できる。			HSU(3)、PT(1)、OT(4)		
②	各系(感覚器系、結合組織、筋系、神経系、関節系、循環系、内臓系など)に対する徒手的治疗手技が実施できる。			HSU(3)、PT(1)、OT(4)		
③						
④						
⑤						
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等		授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	徒手療法の概念について学習する。		講義・実技	徒手療法の概念についてまとめる。		4
2	徒手療法における主観的評価法について学習する。		講義・実技	主観的評価法についてまとめる。		4
3	徒手療法における客観的評価法について学習する。		講義・実技	客観的評価法、クリニカルリーズニングについてまとめる。		4
4	筋膜に対する徒手療法を実践する。		講義・実技	筋膜の解剖についてまとめる。		4
5	筋に対する徒手療法を実践する。		講義・実技	筋の解剖についてまとめる。		4
6	関節に対する徒手療法を実践する。		講義・実技	関節の解剖についてまとめる。		4
7	神経に対する徒手療法を実践する。		講義・実技	神経の解剖についてまとめる。		4
8	PNF (proprioceptive neuromuscular facilitation ; 固有受容性神経筋促通法) の概念について学習する。		講義・実技	PNF の概念についてまとめる。		4
9	PNF (proprioceptive neuromuscular facilitation ; 固有受容性神経筋促通法) PNFパターン (上肢: 屈曲) について学習する。		講義・実技	PNF パターン (上肢: 屈曲) についてまとめる。		4
10	PNF (proprioceptive neuromuscular facilitation ; 固有受容性神経筋促通法) PNFパターン (上肢: 伸展) について学習する。		講義・実技	PNF パターン (上肢: 伸展) についてまとめる。		4
11	PNF (proprioceptive neuromuscular facilitation ; 固有受容性神経筋促通法) PNFパターン (下肢: 屈曲) について学習する。		講義・実技	PNF パターン (下肢: 屈曲) についてまとめる。		4
12	PNF (proprioceptive neuromuscular facilitation ; 固有受容性神経筋促通法) PNFパターン (下肢: 伸展) について学習する。		講義・実技	PNF パターン (下肢: 伸展) についてまとめる。		4
13	脊椎疾患に対する徒手療法の実際について学習する。		講義・実技	脊椎疾患の病態についてまとめる。		4
14	肩関節疾患に対する徒手療法の実際について学習する。		講義・実技	肩関節疾患の病態についてまとめる。		4
15	股関節疾患に対する徒手療法の実際について学習する。		講義・実技	股関節疾患の病態についてまとめる。		4
試	定期試験 (達成度評価・評価のポイントを参照)					

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		100	0	0	0	0	100	
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	0	50	
	思考・推論・創造する力	30	0	0	0	0	30	
	協調性・リーダーシップ	20	0	0	0	0	20	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0	
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	筆記試験 70%、実技試験 30%で判断する。筆記試験は、教科書ならびに授業中のスライド、配布するプリントの範囲から出題する。実技試験はグループで模擬症例を対象にし、実技内容の習熟度を評価する。				必要に応じて解答を提示し、解説を行う。	
	②	✓						
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
<p>教員の実務経験：運動器系理学療法（徒手理学療法）を中心に、理学療法士として病院、整形外科診療所、スポーツ現場での実務経験あり。</p> <p>実践的授業の内容：主に運動器疾患に対する臨床場面を想定し、痛みや可動域制限の原因組織に合わせた徒手理学療法を実践できるよう指導する。</p> <p>*実技を実施する際は、動きやすい格好で参加すること。 *全て対面授業で実施する予定である。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。 問題がある場合は対面授業の参加は認めない。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性がある。</p>								